



『読書の秋』の由来を知っていますか？

夏から秋にかけて日暮れが早まり、夜が長く感じるので読書をするのにふさわしいという意味からきています。

由来は古代中国の詩が元となっているという説が有力とされています。西暦 700 年代後半に生きた韓愈(かんゆ)という文人が読んだ、「灯火親しむべし」という詩があります。この詩の意味は、「秋は過ごしやすい季節で、夜には灯りを灯して読書をするのに最適だ」ということ。

この詩を夏目漱石が「三四郎」という小説の中で取り上げ、そこから読書の秋が広まったといわれています。ぜひこの機会に、「読書の秋」を満喫してください。

秋の読書週間

秋の読書週間とは、毎年10月27日～11月9日の二週間にわたって行われているものです。毎年8月に読書週間の標語を募集し、今年の標語は「ホッと一息 本と一息」です。今回は、秋の読書週間にピッタリな高校生向けの本を4冊紹介します。

よりみち3人 修学旅行 市川 朔久子 // 著 講談社

それぞれの事情から修学旅行に参加できなかった小学6年生の天馬、柊、風知。三人は、中学生になる前の春休みに、離れて暮らす風知の父親に会いに行くという三人だけの修学旅行をすることになりました。風知の父親から出された ミッションをクリアするため、三人で力を合わせて旅行を進めていきます。



15歳 めけがら 栗沢 まり // 著 講談社

今ある市営住宅の中では「いちばんボロい」といわれている団地に住む、母子家庭で育つ少女麻美は、夜の仲間たちと付き合っている。その仲間たちが、万引きなど非行に走るなか、同級生の勧めで、とある学習塾と出会う。そこには、頼りになるおとなたちや、おいしいごはんが待っていた…。強くなろうと、麻美がめざしたものとは？



ショートショートの新話 田丸 雅智 // 編 キノブックス

ショートショートとは、短くて不思議な物語。星新一、筒井康隆、川端康成、谷川俊太郎、江國香織…。古典の名作から現在の傑作まで、田丸雅智がこよなく愛する24作品を集めました。移動時間や待ち時間、夜寝る前など、ちょっとした時間で手にとれる1冊です。



ぼくらはその日まで 小嶋 陽太郎 // 著 ポプラ社

幼馴染の男子サク・ハセと不思議系女子のチカは、長谷川調査隊と周りから呼ばれている仲良し3人組です。中2のクラス替えで一人離れてしまったサクは、チカの事が好きになっていることに気づきます。自分抜きの2人の事が気になっていたサクですが、恋愛に興味のなかった親友のハセが年上の高校生に恋をしていることを知ります。初めての恋に混乱し右往左往するそれぞれを描いています。



(引用：小田原市読書週間おすすめ本)

今月の新着図書



読んでみない？



生き心地の良い町 この自殺率の低さには理由がある

著：岡 檀

徳島県南部のある小さな田舎町は、全国でも極めて自殺率の低い「自殺最希少地域」だった。町民たちのユニークな人生観と処世術。その極意が、四年にわたる現地調査によって解き明かされていく…。「生き方」について迷ったらこの本に聞いてみてください。すぐには役に立たなくても、今後の人生に役に立つことがたくさん書いてあります。



辺野古に基地はつくれぬ

著：山城 博治/北上田 毅

工事は“粛々と”進行…なんかしていない。沖縄の美ら海を破壊し、強行される米軍基地建設。しかし、県民の抵抗と、あまりの難工事のために、工事は遅れに遅れている。巨大、最新鋭の米軍基地の建設が強行される沖縄県、辺野古。しかし、埋立予定地を調べてみたら、そこはマヨネーズなみの軟弱地盤だった。しかも、そのさらに底には活断層の存在まで強く疑われる。貴重なサンゴ、ジュゴンをはじめとする豊かな生態系、そして人々の抵抗。この工事は無謀すぎる。

現在、社会がどうなっているか興味のある方。また、小論文対策にも適している書籍です。



小論文対策に

現在、図書室には受験を控えている3年生のために受験対策として赤本・小論文対策資料・新聞などを取りそろえています。赤本の貸出期間は3日間です。もちろん、今後の受験、面接などに1、2年生にも役立つ職業別の本も置いています。



11月14日（水）に芸術鑑賞会があります。

今年度は、桂 かい枝さんによる、上方落語学校寄席（英語落語）です。

内容は、落語の紹介、古典落語（日本語）、ワークショップ（小道具での仕草や小咄の披露、大喜利など）、英語落語です。

